

教育センター学びの丘長期研修員研修の概要について

紀の川市立名手小学校
教諭 粉谷 望

和歌山県教育センター学びの丘における長期研修員研修は、教育に関する専門的・技術的事項について研修し、教職員としての資質能力を高めるとともに、今日的教育課題解決のための研修・研究を行い、その成果を本県教育の充実に生かすことを目的とし、実施されている。言うまでもなく、教員は絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。研究とは「物事を詳しく調べたり、深く考えたりして、事実や真理を明らかにすること」、修養とは「知識を高め品性を磨き、自己の人格形成につとめること」(『大辞泉第2版』2012, 小学館)とある。

今回、長期研修員研修を「自己の専門性をより向上させるための研究と、教員としての資質を広く高める修養の機会(下図参照)」として捉え、1年間研鑽を積むこととなった。研修期間中は、センター等が実施する多岐にわたる研修講座や指導主事等による「研修員研修」の受講、所属校における学校課題解決のための校内研修への参加等をとおして、幅広く教員としての資質能力の向上を目指してきた。

修養では、学び続ける教員としての在り方を学んだ。初任者研修を聴講したことは、受講者としての立場に加え、研修を計画する立場についても考えることができ、どのような学びが教員にとって必要か考察するきっかけとなった。また、学びの丘が実施する学校支援「Eサポート」等に同行することで、学校を外から見る目を養えたと感じている。加えて、研修員研修では、主体的・対話的で深い学びについての理解を深め、次期学習指導要領の方向性を把握することができた。様々な分野から学び、それらで得た複数の知識がつながることで、学ぶことの喜びや楽しさを実感した。また、これまで経験から考えていたことが、理論と結び付くことで、考えに根拠をもつことができ、理解をより深められた。

研究では、単元末のゴールである付きたい力を明確にした授業設計を行う大切さを感じ、これまでの国語科の授業づくりにおける課題について深く考えることができた。そして、提案授業では、児童に力が付いていると実感することができ、充実した実践となった。付きたい力を明確にした授業づくりは、他教科の授業づくりにもつながると考えている。これらの修養と研究が、自身の教員としての成長に大きく関わっている。

この1年間を通して、様々な人との出会いがあった。一人でできることは限られているが、考えたことやアイデアを出し合い、共に考える中でしか学べないことがあるとわかった。これは、学校組織も同じように考えられる。今後は、1年間の学びを学校や地域に還元すると共に、ミドルリーダーとして、リーダーシップやフォロワーシップを発揮し、学び合う学校づくりに関わっていききたい。

なお、自己の専門性を向上させるために、年間を通して行った研究については、別途「研究報告書」としてとりまとめることとする。

段階	第1段階 基礎期	第2段階 向上期	第3段階 探究期	第4段階 充実期	第5段階 修了期
月	4月～5月	6月～8月	9月～11月	12月～1月	2月～3月
研究	・研究テーマ、方向性を設定し、第1回報告会で発表	・所属校での授業研究に向けた単元計画、資料等の作成、模擬の授業実施	・授業・研修研究計画を立て、第2回報告会で発表 ・授業研究の実施	・授業研究で収集したデータ分析 ・和歌山教育実践研究大会で発表	・研究報告書、資料の作成

所属校研修「所属校との連携・研修成果の還元」

- 修養
- 「授業力」「学校組織開発力」「校内研修運営力」向上トレーニング
 - 専門性の向上を目指す専門研修講座等受講
 - 初任者研修、10年経験者研修等聴講
 - 学びの丘指導主事等による研修員研修

図 研修の概要